

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|---|-----|-----------|
| 教 職 論 | 2単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>教職（保育）は子どもの成長発達に指導、援助する仕事である。そのため子どもの学ぶ意欲を高め、知的好奇心を醸成し、人間関係を豊かにする授業を創り出すことが教職論の重要な目標である。教職者は保育への課題に関心を持ち、授業に関わる専門性について学ぶとともに、あるべき保育教育のビジョンを明確にすることを主要なテーマにし、自分が目指す教職者像の確立を図る。</p> | | |
| 《学習成果》 | | |
| <p>レポ ー ト：時代の変化に対応した教員養成の在り方を理解し、教員に求められる専門性について、論じることができる。</p> | | |
| <p>科 目 試 験：教職者に求められる資質能力や教職の在り方などの基本的事項について理解している。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>本授業は望ましい教職者（保育者）とは何かを希求し、その実現のために何を学び、理解し、身に付けなければならないかを主要なテーマにする。</p> <p>具体的な授業の内容は、教職者の資質、専門性、制度的位置付け、子ども理解、教職の内容と遊び、計画と相互的な指導、援助の在り方、教職者間の協働、保護者への支援と連絡、地域社会や専門機関・小学校との連携などである。理論に基づいた実践、実践で確かめレベルアップされた教職理論の理解を深め、教職者としての意欲、態度、自覚を高める授業の展開をする。</p> | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 教職の意義・教職者とは何か 2. 教職者に求められる資質・能力 3. 教員養成の歴史 4. 教職者資質と役割 5. 指導計画（保育のねらい・内容） 6. 教職者の仕事 7. 教職者の研修 8. 教職者の職場環境 9. 教職者の任用と服務 10. 先人から学ぶ教職論 11. 教職者の制度的な位置付け 12. 教職課程と評価 13. 家庭や地域社会、保育園、幼稚園、小学校との連携 14. 教育実習の目的や内容 15. よい教職者になるために | | |
| テキスト | | |
| <p>「教職論」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） 「保育所保育指針解説書」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| <p>特になし</p> | | |
| 学生に対する評価 | | |
| <p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 （レポート評価はルーブリック評価を用い行う。）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p> | | |

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|--|-----|-----------|
| 教 育 原 理 | 2単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>教育の思想とその作用、また我が国の教育制度と歴史について学ぶことにより、教育の課題と可能性についての理解を深めることを目標とする。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポ ー ト：保育所、幼稚園についての基礎的事項と保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容的な変遷を理解するとともに、教育という営みについて自分の言葉で述べることができる。</p> <p>科 目 試 験：教育思想について基礎的な知識を身につけ、それらについて適切な観点から説明し、そこに自らの考えを組み合わせ「未来の保育者」としての考えを述べるができる。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>授業では、「教育」全般に関わる様々なテーマを扱う。こどもの発達、保育・教育の法制度、教育課程と教育方法、教育の歴史、といった分野について基本的な知識を習得し、自ら今日的課題と今後の展望について考察できる力の育成をめざす。</p> | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ教育を学ぶのか（専門家としての心構え） 2. 教育・保育とは何か（理念と意義） 3. 教育・保育とは何か（教育と児童福祉の関連性） 4. 教育・保育の作用（発達の段階と課題） 5. 教育・保育の現在（教育における今日的課題） 6. 教育・保育の現在（学校経営、幼保小連携について） 7. 教育・保育の思想（ソクラテス、コメニウス、ペスタロッチ、ルソー、ヘルバルト、他） 8. 教育・保育の思想（フレーベルと幼児教育、デューイの児童中心主義、ブルームと教育評価） 9. 教育・保育の制度（保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園） 10. 教育・保育の制度（義務教育制度） 11. 教育・保育の制度（学校教育と教師論） 12. 教育・保育の制度（諸外国の教育制度） 13. 教育の歴史の変遷（明治～昭和：近代公教育制度の成り立ち） 14. 教育の歴史の変遷（昭和～平成：戦後教育の特徴と今日の教育改革） 15. まとめ：教育と現代社会（教育に関する課題） | | |
| テキスト | | |
| <p>「教育原理」（配本テキスト）</p> <p>「教育原理（別冊）」（配本テキスト）</p> <p>「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）</p> <p>「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| <p>特になし</p> | | |
| 学生に対する評価 | | |
| <p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 （レポート評価はルーブリック評価を用い行う。）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p> | | |

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|-----------|-----|------------------|
| 教育心理学 | 2単位 | レポート・科目試験・スクーリング |

授業のテーマ及び学習成果

教育心理学は、教育や発達について心理学的に理解していく学問である。本講義は、ヒトの発達に関する知識を基礎として、学習の仕組み、及びそれを発揮する為に必要な動機付けや適切な学習環境についての基礎的知識を習得し、これらを保育実践に生かす力を担保するものである。

《学習成果》

- レポ ー ト：動機付けの概念について理解し、内発的動機付けを実際の教育現場に活かす事ができる。
- 科 目 試 験：学習の仕組みや指導方法論、その評価について概説できる。
- スクーリング：子どもの学びと変化について心理学的に分析し、その知識を保育実践に応用できる。

授業の概要

教育心理学における発達と学習の領域を中心に、「教えること」「育てること」に関する心理学的な考え方を紹介する。「発達」では、幼児期までの発達の特徴や遊びを通じた変化について、「学習」では、動物実験を基礎とした学習理論や、実際の教育現場での指導・評価方法について解説する。

授業計画 テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業

【通信授業】

1. 教育心理学を学ぶ意義
 - ①教育心理学における発達、学習、適応、評価と測定
 - ②教育心理学の四大領域を学ぶ意義
2. 発達の考え方とその理解
 - ①生涯発達心理学の概念
 - ②各段階における発達の特徴（運動、言語、認知、社会発達）
3. 学習の仕組み
 - ①連合説と認知説
 - ②様々な学習理論の応用
4. 主体的な学習を支える「やる気」
 - ①内発的動機付けと外発的動機付け
 - ②学習性無力感と自己効力感
5. 集団での学習とその評価
 - ①学習指導の形態
 - ②評価の仕方とその意義
6. 動機付けからみる発見学習の仕組み
 - ①発見学習の手続き
 - ②発見学習により動機付けが高まる理由
7. 教育心理学に基づく保育実践

【面接授業】

1. 発達課題に応じたかかわり
 - ①各段階の発達の特徴
 - ②エリクソンの発達課題
2. 子どもから大人への思考様式の変化
 - ①ピアジェの認知発達理論
 - ②思考発達段階ごとの特徴
3. 学びを支える記憶
 - ①感覚記憶、短期記憶、長期記憶
 - ②単純記憶から複雑記憶への変化
4. 子どもの学びの姿
 - ①日常生活からみる学習理論
 - ②オペラント条件付けを利用した保育実践
5. 子どものやる気を引き出す指導の在り方
 - ①指導者の態度（ピグマリオン効果）
 - ②様々な学習形態とその効果
6. 子どもの遊びの重要性
 - ①遊びの変化
 - ②遊びを通じた社会性の発達
7. 子どもと道徳
 - ①幼児期に迎える第一次反抗期と自立
 - ②道徳の指導方法
8. 教育心理学を用いた環境づくり

テキスト

- 「教育心理学」（配本テキスト）
- 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）
- 「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）
- 「幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）

参考書・参考資料等

- 「史上最強図解よくわかる発達心理学」林 洋一著（ナツメ社）（ISBN：9784816349324）

学生に対する評価

【通信授業】

学習状況の確認：レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。
(レポート評価はルーブリック評価を用いる。)

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。

【面接授業】

| 領域 | 割合 | 評価基準 |
|--------|--------------------------------------|--|
| 受講態度 | 40% | 保育現場に立つ者として積極的に教育心理学の理論を取り入れようとする姿勢を評価する。 |
| 課題 | | |
| その他 | | |
| 単位認定試験 | 60% | 教育心理学の知識がもたらす保育実践への貢献性について理解できている。 教育心理学の理論を保育実践に活用できることを理解できている。 論述に関して自身の保育実践への思いが記述されている。 |
| 特記事項 | 上記2領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 | |

※科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う。

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|---|-----|-----------|
| 発 達 心 理 学 | 2単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>発達心理学の基礎的な理論をベースに、保育活動に重要な乳幼児期について重点的に学び、子ども理解を深め、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを理解する。特に実際の保育活動、対人支援活動の中で活かせるような知識を習得する。また、発達は生涯を通じて起こるものであることを理解し、生涯発達についての概観的知識を得る。</p> | | |
| ≪学習成果≫ | | |
| <p>レポ ー ト：発達心理学の定義、発達心理学を学ぶ意義、発達心理学の具体的知見、および発達心理学の実践的活用方法を示すことができる。</p> <p>科 目 試 験：発達心理学にかかわる基本的な用語を理解し、説明できる。また、生涯にわたる発達について理解し、それぞれの時期の特徴について説明できる。特に、幼児期の発達の特徴については月齢・年齢ごとに適切に捉え、説明することができる。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>発達心理学の定義および発達心理学にかかわる基本的な用語の解説、および生涯にわたる発達についての概要を示す。特に乳幼児期については、発達の知見に加え、学習の意義や実践的な保育への活用法について併せて検討する。</p> | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達心理学の定義、発達心理学で学ぶ内容の概要 2. 発達はどのように起こるか：遺伝説と環境説、それらの複合説について 3. ピアジェの発生的認識論（シエマ）と認知発達段階 4. ピアジェによる発達心理学を通して子どもを理解する 5. エリクソンによるライフステージの概要：生涯にわたる発達の基礎 6. 乳児期の発達：反射と表象の形成 7. 乳幼児期の発達：愛着の形成と発達（動物の社会形成から）、及びスピッツによる微笑の発達 8. 幼児期から児童期の発達：運動・言葉・情緒・遊びの発達、自己認識や社会性の拡張 9. 児童期・青年期の発達：社会性の拡張と、アイデンティティの確立 10. 成人期の発達：親密性の確立と、現在の社会から見る青年期の課題・人間関係の課題 11. 壮年期・老年期の発達：人格の完成と、死の受容 12. ハヴィガーストおよびエリクソンの発達課題から見る生涯発達心理学 13. 発達心理学と教育学の関連：児童の発見から学校への適応まで 14. 保育に活用できる発達心理学：相互の関わりを通じた発達の観点から 15. 自身の学びに活用できる発達心理学：生涯発達という観点から見て、自分自身の発達を捉える | | |
| テキスト | | |
| <p>「発達心理学」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） 「保育所保育指針解説書」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| <p>「史上最強図解よくわかる発達心理学」林 洋一監修（ナツメ社）（ISBN：9784816349324）</p> | | |
| 学生に対する評価 | | |
| <p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 （レポート評価はルーブリック評価を用い行う。）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p> | | |

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|---|-----|-----------|
| 教育課程論 | 2単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の内容の充実と質の向上に資する教育課程・保育課程について理解する。 2. 教育課程・保育課程の編成と、指導計画の作成について習得し、評価・改善の力をつける。 3. 保護者や関係機関との連携について学ぶ。 | | |
| 《学習成果》 | | |
| レポ ー ト：教育課程編成に関する法体系や、学習指導要領（幼稚園教育要領・保育所保育指針）の変遷が理解できる。 | | |
| 科 目 試 験：教育課程・保育の基本や教育の歴史を学ぶとともに、教育をめぐる諸問題について理解できる。 | | |
| 授業の概要 | | |
| まずは、テキストの内容について理解する。幼児、子どもを育てる上で、大切なこと（目標）、どのような方法・手だて（方針）、どのような内容で、どの時期に、どんな環境で、等々を学ぶ。幼児教育・保育における教育課程・保育課程の意義と役割を明らかにする。 | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 「教育課程論」とは何か ・公教育を担う教育課程 2. カリキュラムの基礎理論 3. 近代教育思想の形成・近代教育課程の形成・発展 4. 現代の教育課程論・各国の教育課程 5. 日本における教育課程の変遷・学習指導要領前史 6. 学習指導要領の変遷とその特色 7. 教育課程の法と行政 8. 小学校教育課程の編成の実際 9. 教育課程・保育課程と保育の基本 10. 明治・大正・昭和前期の保育の歴史 11. 昭和後期の保育課程 12. 幼稚園教育要領、保育所保育指針の変遷 13. 教育課程・保育課程編成の実際 14. 教育課程をめぐる諸問題 15. 学習のまとめ | | |
| テキスト | | |
| 「教育課程論」（配本テキスト） | | |
| 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） | | |
| 「保育所保育指針解説書」（フレーベル館） | | |
| 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館） | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| 「教育課程・保育計画総論」田中亨胤、佐藤哲也編著（ミネルヴァ書房）（ISBN：9784623047161） | | |
| 学生に対する評価 | | |
| 学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 （レポート評価はルーブリック評価を用い行う。） | | |
| 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。 | | |

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|---|---|-----------|
| 保育内容総論 | 1単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体的構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶことを目的とする。</p> | | |
| 《学習成果》 | | |
| <p>レポ ー ト：保・幼・小の連携の必要性と具体的な取り組みについて理解し、自分の言葉で説明ができる。</p> | | |
| <p>科 目 試 験：保育内容の歴史の変遷、生きる力の基礎を育む保育内容、保育における自己評価の在り方について自分の言葉で説明ができる。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>保育内容総論では、領域別の授業で学んだ内容を実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解する。保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な実例をもとに解説する。</p> | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | |
| 1. 保育の全体的構造 | <ul style="list-style-type: none"> ①育みたい資質・能力の三つの柱と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 ②領域の考え方と乳児保育の領域 | |
| 2. 保育内容の歴史の変遷 | <ul style="list-style-type: none"> ①変遷にみる特徴 ②変遷にみる課題 | |
| 3. 養護と教育の一体的展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・養護的なかかわりと教育的なかかわり | |
| 4. 乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 | <ul style="list-style-type: none"> ①乳幼児にとっての園行事の意味と在り方 ②保幼小の円滑な連携 | |
| 5. 生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開 | <ul style="list-style-type: none"> ①環境を通して行う保育 ②遊びによる総合的な保育 | |
| 6. 全体的な計画の作成と指導計画の作成 | <ul style="list-style-type: none"> ①全体的な計画の作成 ②指導計画の作成手順と配慮 | |
| 7. 保育の評価と保育の記録 | <ul style="list-style-type: none"> ①幼児理解に基づく評価 ②観察記録を書く意味と幼児理解 | |
| 8. 保育内容の現代的課題について | <ul style="list-style-type: none"> ①子育て支援 ②多文化共生保育 | |
| テキスト | | |
| 「保育内容総論」（配本テキスト） | | |
| 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） | | |
| 「保育所保育指針解説書」（フレーベル館） | | |
| 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館） | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| 「ここがポイント！3 法令ガイドブック」 | | |
| 無藤 隆、汐見稔幸、砂上史子著（フレーベル館）（ISBN：9784577814253） | | |
| 学生に対する評価 | | |
| <p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。</p> | | |
| （レポート評価はルーブリック評価を用いて行う。） | | |
| <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p> | | |

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|---|--|---------|
| こどもと健康 | 1単位 | スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と身体的基础を作る重要な時期である。子どもの健康を守り育てるためには実際の保育現場で子どもの発達をどのように捉え、どのような内容について、どのように指導し支援するのが効果的かについて積極的に関与し、子どもの個々の健康状態を評価する能力を養うことを目的とする。</p> | | |
| 《学習成果》 | | |
| <p>スクーリング：1. 領域「健康」のねらいと内容が理解できるようになる。 2. 健全な発育・発達を阻害している健康問題を認識・考察し、健康保持の生活についてアプローチしようとする力を養う。 3. 運動遊びを理解し、発達に合わせて適切な内容を選ぶことができる。 4. 子どもが基本的な生活習慣を獲得するための援助及び指導ができるようになる。 5. 安全教育を理解し、管理及び指導の方法がわかるようになる。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育・発達の状態に合った配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら子どもの積極的な健康指導を目指す。</p> | | |
| 授業計画 スクーリングによる面接授業 | | |
| 1. 領域「健康」の意味 (保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のねらいと内容の理解) 2. 乳幼児の心身の発育発達 3. 子どものこころの健康 4. 基本的な生活習慣の獲得 5. 子どもの遊びの発達と健康 6. 安全管理と安全教育 7. 健康と自然環境 8. 保育内容「健康」のまとめ | ①保育の意義と児童観 ②子どもの姿を「みる」「みきわめる」そして、「かわる」ことからの「子ども理解」 ①幼児期の心の発達、幼児期の身体発達 ②発達過程に応じた保育、保育課程編成の基本 ①こころの発達とストレスのサイン ②子どもの健康と虐待 ①幼児の生活スタイルの現状と問題点 ②食育と健康との関わり ①幼児の遊びを豊かにするための保育者の役割 ②幼児の遊びを引き出す環境づくり ①交通安全指導、避難訓練 ②ケガや病気などの体調異常に対する処置法 ①園外保育の活動内容 ②園外保育の留意点 | |
| テキスト | | |
| 「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館) 「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館) | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| 担当教員が指示する。 | | |

学生に対する評価

| 領域 | 割合 | 評価基準 |
|--------|--------------------------------------|--|
| 受講態度 | 20% | 保育者を目指すものとして、自律した学ぶ姿勢・行動であるかを基準とする。 |
| 課題 | 20% | 補助評価シート（ワークシート）を用いたプレゼンテーションの内容、発表姿勢を基準とする。 |
| その他 | | |
| 単位認定試験 | 60% | 授業で取り扱った内容について、保育者としての視点から深く論じることができているかどうかと基準とする。 |
| 特記事項 | 上記3領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 | |

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|---|-----|---------|
| こどもと人間関係 | 1単位 | スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>近年わが国では、急速な情報化の進展によりインターネットや携帯電話等を利用した多様なコミュニケーションが頻繁になされるようになった。しかし、それは形式的で表面的な浅い付き合いで終わってしまうことも多い。また、かつて家庭や地域社会にあった対面での相互交流をとおした豊かな人間関係を築いていく基盤が失われつつある。「ヒト」は人と人との豊かなかかわりをもてるようになることで「人間」になっていく。子どもたちが、人的物的環境にかかわり、主体的に活動をすることや、互いに支え合って生活をしていくことに喜びや充実感を感じるために、保育者の適切な援助方法や「人間関係」についての基礎の習得を目的とする。</p> | | |
| 《学習成果》 | | |
| <p>スクーリング：1. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取り扱いについて説明できる。</p> <p>2. 人間関係の発達や自立心・道徳性の発達など子どもを深く理解し、保育実践に応用できる。</p> <p>3. 養育者・保育者・地域の人々など、子どもを取り巻く人的環境における関係性について考察することができる。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>子どもたちを取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」と「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりをとおした人間関係の発達について実践のエピソードを取り上げ解説していく。</p> | | |
| <p>また、保育者としてどのように子どもの人とかかわりを育てていくのか、保育者として子どもとどのような関係性を築いていくのか、こども－養育者、こども－保育者、保育者－養育者、さらには保育者－保育者という様々な関係性について考察していく。</p> | | |
| 授業計画 スクーリングによる面接授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の基本と人とかかわり <ul style="list-style-type: none"> ・人とかかわりの基礎を育てること／領域「人間関係」のねらいと内容 2. 乳幼児期における人とかかわりの発達 <ul style="list-style-type: none"> ・乳児期の発達と人間関係／幼児期の発達と人間関係 3. 遊びのなかで育つ人とかかわり <ul style="list-style-type: none"> ・人とかかわりと遊び／遊びの中での人間関係 4. 人とかかわりを育てる保育の実践 <ul style="list-style-type: none"> ・人とかかわれない子どもたち／人とかかわる力が育っていくプロセス 5. 人とかかわりを育てる保育者の役割 <ul style="list-style-type: none"> ・モデルとしての保育者／対話者・援助者としての保育者 6. 人とかかわりが難しい子どもへの支援 <ul style="list-style-type: none"> ・人とかかわりが難しい子を支援する／さまざまな連携 7. 園、家庭、地域の生活と人とかかわり <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活と人とかかわり 8. 領域「人間関係」をめぐる諸問題 | | |
| テキスト | | |
| <p>「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） 「保育所保育指針解説書」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p> | | |

参考書・参考資料等

保育内容「人間関係」森上史朗・小林紀子・渡辺英則編（ミネルヴァ書房）（ISBN：9784623054985）

学生に対する評価

| 領 域 | 割合 | 評 価 基 準 |
|---------|--------------------------------------|---|
| 受 講 態 度 | 10% | 授業はグループワークへの関心・意欲・態度や、ふり返りシートの内容によって評価する。 |
| 課 題 | 40% | 演習（1.2.3.4）のそれぞれに設定されたねらいが達成できたかどうか、ワークシートの内容で評価する。（一つの演習につき10%の評価） |
| そ の 他 | | |
| 単位認定試験 | 50% | 領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取扱いについて理解できているかどうか、また人的環境における関係性や、人間関係の支援について理解し、課題に正対して論文が構成されているかどうかで評価する。 |
| 特 記 事 項 | 上記3領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 | |

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|--|-----|---------|
| こどもと環境 | 1単位 | スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>乳幼児期のこどもの発達と環境の関係性を考えることにより、より良い保育を実践する重要性を認識する必要がある。また保育者が保育環境の構成をどうデザインするかということについても学ぶ。環境を通して行う保育の意味についてしっかりと考えて行く。</p> | | |
| <p>《学習成果》</p> | | |
| <p>スクーリング：1. 保育内容「環境」のねらいと内容をしっかり理解する。 2. こどもを取り巻く様々な環境（人的・物的・自然・社会・文化）についてしっかり理解し、関心を持てるようになる。 3. 保育者の役割を常に考え、保育を実践できる力をつける。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>こどもは、様々な環境の中で生活をしている。それは家庭・地域社会・保育所・幼稚園・認定こども園であり、また「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」の中で生きている。様々な生活経験を通して、人格形成をはじめ思考力・創造力・想像力等を学んでいく。本科目では、環境とは何かを理解しそこにどう関わるかを中心に、保育現場における具体的事例を上げて学習していく。</p> | | |
| <p>また、グループ学習を含め、視聴覚教材を使用し、より深く学んでいく。</p> | | |
| 授業計画 スクーリングによる面接授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境とは <ol style="list-style-type: none"> ① 環境という言葉、環境の定義 ② 環境を通して行う保育の意味 2. 領域「環境」の位置づけ <ol style="list-style-type: none"> ① ねらい・内容 ② 内容の取扱い・指導計画 3. 身近な環境の構成 <ol style="list-style-type: none"> ① 人的環境・物的環境 ② 自然環境、社会・文化環境 4. 保育における環境の重要性 <ol style="list-style-type: none"> ① 好奇心・探究心 ② 思考力の芽生え 5. 保育環境のデザイン <ol style="list-style-type: none"> ① 室内環境 ② 室外環境 6. 保育者の役割 <ol style="list-style-type: none"> ① 3つの役割（環境要素の一つ・コーディネーター・こども同士のかかわりあい） 7. さまざまな環境との出会い <ol style="list-style-type: none"> ① 標識・文字との出会い ② 数量と図形・ものの性質との出会い 8. こどもと環境 <ol style="list-style-type: none"> ① こどもの遊びの世界における「3間」の意味 ② 現状と課題（小学校との連携など） | | |
| テキスト | | |
| <p>「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） 「保育所保育指針解説書」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p> | | |

参考書・参考資料等

「新子どもと環境」－理論編 小田豊監修（三見書房）（ISBN：9784783080022）

「新子どもと環境」－実技・実践編 小田豊監修（三見書房）（ISBN：9784783080039）

「子ども環境から考える保育内容」大橋喜美子・三宅茂夫編著（北大路書房）（ISBN：9784762826917）

学生に対する評価

| 領 域 | 割合 | 評 価 基 準 |
|---------|--------------------------------------|---|
| 受 講 態 度 | 10% | 授業内での関心・意欲・思考力・判断力を基準とする。 |
| 課 題 | 30% | グループワークでの発表内容を基準とする。 |
| そ の 他 | | |
| 単位認定試験 | 60% | 授業の内容を踏まえ、保育者を目指す上での体験を生かし、本質に根ざした論文を書くことができるかを基準とする。 |
| 特 記 事 項 | 上記3領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 | |

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|--|-----|---------|
| こどもと言葉 | 1単位 | スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 「人としてのあかし」と言われる言葉について、乳幼児期の言葉の発達過程を理解することを目的とする。 2. 言葉を用いて思考し、人に話そうとする意欲、他人の話を書く姿勢・態度、小学校の生活に必要な自己表現ができる「言葉」の獲得等について理解することを目的とする。 3. 言葉遊び（わたべうた・なぞなぞ・しりとり等）、文字体験（カルタ・標識・ごっこ遊び）等の活動を通して言葉に対する感覚、言葉のもつ美しさ、楽しさを認識し、理解することを目的とする。 4. こどもの豊かな言葉を育むにはどのようにすべきか、物語・絵本・紙芝居等のイメージーション体験を通して日常的に使用する言葉以外の言葉の獲得のあり方について認識し、理解することを目的とする。 5. 言葉に問題があったり、遅れがある幼児、また外国籍の幼児等について個々に応じた配慮、支援を認識し理解することを目的とする。 | | |
| 《学習成果》 | | |
| <p>スクーリング：1. 乳幼児期の言葉がどのような過程を経て獲得するか言語環境、非言語環境、信頼できる人とのふれ合い等もふまえて、年齢別のコミュニケーションを図ることができるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. こども自らが言葉を発することの意味を保育者、友達、保護者との関係から認識し理解できるようになる。 3. 乳幼児期の言葉の重要性を、絵本・物語・言葉遊び・文字体験活動等も加え、広範囲に役割が認識できるようになる。 4. こどもの心情・思考や行動などを育む保育者の言動のあり方が認識できるようになる。 5. 言葉の障害、外国籍の幼児について配慮、支援のあり方を認識し、理解できるようになる。 | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどもへの先達となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深めるとともに、文字への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材についても相互の意見交換や実践的な取り組みを行い、乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探究する。</p> | | |
| 授業計画 スクーリングによる面接授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育と言葉 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉とは何か・生活と言葉（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）、言葉環境としての保育者の言葉のあり方 ・領域「言葉」の位置付けと他領域との関わり 2. 乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価 <ul style="list-style-type: none"> ・領域「言葉」指導上の留意点と評価 ・0歳～5歳における言葉の発達、6歳の就学に向けた取り組み 3. 言葉を豊かに育む活動(1) <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びによる感覚 ・わらべうた、なぞなぞ、しりとり、ごっこ遊び、劇遊び等、言葉遊びの実践による模擬保育体験 4. 言葉を豊かに育む活動(2) <ul style="list-style-type: none"> ・言葉から文字へ、文字による環境 ・文字体験としてのカルタ・双六・絵カード等の制作及び模擬保育体験実践 5. 保育者と言葉のあり方 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の遅れや障がいをもつ乳幼児の捉え方と支援 ・外国のこどもとの対応 6. 言葉を豊かに育む活動(3) <ul style="list-style-type: none"> ・言語教材としての絵本の意義 | | |

- ・絵本と保育現場の実際
- 7. 言葉を豊かに育む活動(4)
 - ・読み聞かせによる指導案作成と留意点
 - ・絵本実践による模擬保育体験
- 8. 言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携

テキスト

- 「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)
- 「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)
- 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)

参考書・参考資料等

- 「ことばからの育ち一言葉 (保育内容・実践と研修シリーズ)」
村石昭三 (フレーベル館) (ISBN : 9784577801451)
- 「魅力ある保育者たち」高石自子 (ひかりのくに) (ISBN : 9784564600241)

学生に対する評価

| 領域 | 割合 | 評価基準 |
|-------------|--------------------------------------|--|
| 受講態度 | 10% | 姿勢、意欲、発表等により評価する。 |
| 課題 | 10% | テーマに沿った内容が簡潔にまとめられていることを基準とする。 |
| その他 (演習) | 30% | 制作、実践の取り組みが真摯であること。 ・年齢を考慮した言葉を使用し制作されていること ・それぞれの実践の内容が適切であり、かつ時間内で実践が終えられること ・受講生の前で発表できること |
| 単位認定試験 | 50% | 出題についての確に解答されていることを基準とする。 (暗記ではなく各人が受け取った内容、考えが述べられていること) |
| 特記事項 | 上記4領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 | |

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|--|-----|---------|
| こどもとリズム表現 | 1単位 | スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| 音楽表現、身体表現、言語表現、造形表現の各領域を横断した「表現」に関する知識や保育技術の習得と、実践を通じた感性や人間力の育成を目指す。 | | |
| 《学習成果》 | | |
| スクーリング：保育内容を理解し、こどもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術を音楽表現的領域、身体表現領域、言語表現領域、造形表現的領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの音楽表現、身体表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識をも合わせて習得する。 | | |
| 授業の概要 | | |
| 幼児にとって、音楽と身体は自己表現と切り離せないほど密接な関係にある。本授業では幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を自らの音楽表現や身体表現、言語表現、造形表現から学習する。さらに、小学校以降の教科とのつながりを見通した授業構想を指導案作成と共に実践できるよう、指導援助者としてあるべき姿を追求していく。 | | |
| 授業計画 スクーリングによる面接授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「表現」についての基本的な考え方 <ol style="list-style-type: none"> ①古代から近代における幼児教育の歴史的系譜をもとに「表現」についての洞察を深める。 ②幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の指導において求められる表現の捉え方と評価及び小学校の教科等とのつながりを理解する。 2. 身体表現① <ol style="list-style-type: none"> ①歩く、走る、スキップ、ギャロップなどの基本リズムパターンの理解と指導上の留意点を学ぶ。 ②幼児期の身体的・精神的発達をふまえた指導法を理解する。 3. 身体表現② <ol style="list-style-type: none"> ①幼児の心情・認識・思考及び動き等をふまえた基本的動作を実践する。 ②日常生活が表現につながる可能性に気づき、観察や模倣を通して幼児のイメージを豊かにする指導法を実践する。 4. 音楽表現・身体表現 <ol style="list-style-type: none"> ①童謡やわらべうた、動作カードを活用した多様な振付方法を理解する。 ②幼児の表現したい気持ちを育む指導法を実践する。 5. 音楽表現 <ol style="list-style-type: none"> ①楽器の取り扱いと身近な素材を使ったオリジナル楽器を制作する。 ②指導案作成の基礎を理解し、オリジナル楽器を使った活動について指導案を作成する。 6. 言語表現（イメージと動き、言葉） <ol style="list-style-type: none"> ①オノマトペ（擬態語・擬音語・擬声語）を動きや言葉で表現する。 ②「表現」の学びには国語・算数・生活・体育など他教科にわたる教科内容につながることを理解する。 7. 表現する力を育てるための保育者の役割と援助 <ol style="list-style-type: none"> ①絵本のストーリーをもとに、音楽・身体・造形表現を取り入れた模擬保育を実践する。 ②相互発表による振り返りを通して、認めること、評価すること、保育構想の発展の手がかりとする。 8. リズム表現 <p>オリジナルリズム遊びの創作、実践を通して幼児が持つ表現への意欲と喜びを理解して育む指導援助者の素地を作る。</p> | | |

テキスト

- 「こどもとリズム表現 スクーリング教材」(配本テキスト)
「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)
「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)

参考書・参考資料等

- 「1～5歳のかんたんリトミック」神原雅之著(ナツメ社)(ISBN:9784816354083)
「リズム&ゲームにどっぷり!リトミック77選」
神原雅之編、井上恵理・菅沼邦子・小見英晴・有谷英彰著(明治図書)(ISBN:9784187700168)
「乳幼児のダンスABC」猪崎弥生・山田悠莉著(一二三書房)(ISBN:9784891991524)

学生に対する評価

| 領域 | 割合 | 評価基準 |
|--------|--|---------------------------------|
| 課題 | 20% | 事前課題により評価する。 |
| 受講態度 | 80% | 授業態度、授業内発表の成果、単位認定試験の結果により評価する。 |
| 単位認定試験 | | |
| その他 | | |
| 特記事項 | 上記2領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 ※事前課題の提出がスクーリング受講必須条件です。 | |

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|--|-----|-----------|
| こどもと造形表現Ⅰ | 1単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>保育の内容を理解し、乳幼児を含めたこどもの造形の指導・援助者として、こどもの発達過程と造形教育の中で取り扱う教材に必要な知識、さらに材料・用具の操作体験など実践学習を通して、体験的・技術的に学習する。</p> | | |
| 《学習成果》 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる。 3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識が習得できる。 | | |
| <p>レポ ー ト：こどもの発達過程を通じた造形的表現の特徴や、保育者として造形を指導する方法や援助の方法について理解し、習得する。</p> | | |
| <p>科 目 試 験：保育の内容を踏まえた造形教育の基礎知識と、造形活動に関わる指導法と援助について、理解し、習得する。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>乳幼児における表現活動の大切さと、こどもの発達過程を基盤とした造形的な表現の特徴を理解する学習をする。実際に材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」の題材を通じて、手の動きによる描写や造形、描画材の特徴の理解及び表現技法の習得と活用、素材を用いた立体物や玩具等の製作体験を交えながら、実践での造形教育活動を行うにあたり、環境構成を踏まえた指導計画案の作成や、援助のあり方についての知識を関連づけながら学習を深める。</p> | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の造形表現と保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「感性」と「表現」について 2. 乳幼児期の発達と造形活動の特徴について 3. 造形活動の支援・環境づくりについて 4. 絵をかく環境づくりと指導・援助について 5. つくって遊ぶ環境づくりと指導・援助について 6. 自然の遊び・造形あそびの環境づくりと指導・援助について 7. 造形活動の道具・用具・素材・材料の指導と美術教育の歴史について 8. 保育・教育実習と指導案について | | |
| テキスト | | |
| <p>「こどもと造形表現Ⅰ」「こどもと造形Ⅰ」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） 「保育所保育指針解説書」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| <p>市販の造形表現に関する書籍等</p> | | |
| 学生に対する評価 | | |
| <p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 （レポート評価はルーブリック評価を用い行う。）</p> | | |
| <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p> | | |

| | | |
|-----------|-----|---------|
| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
| こどもと造形表現Ⅱ | 1単位 | スクーリング |

授業のテーマ及び学習成果

保育の内容を理解し、乳幼児を含めたこどもの造形の指導援助者として、こどもの発達と保育の中で取り扱う教材に必要な知識、さらに材料・用具の操作体験など実践学習を通して、体験的・技術的に学習する。

《学習成果》

- スクーリング：1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。
 2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる。
 3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。

授業の概要

乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。

授業計画 スクーリングによる面接授業

1. 表現領域、幼児造形表現の学習について
2. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」領域について
 小学校との連携（「図画工作」の学習指導要領）について
3. 造形教育の思想と指導法の推移について
4. こどもの発達段階における表現の特徴と指導・援助について
5. 教材研究を伴う製作Ⅰ（えがく）
6. 教材研究を伴う製作Ⅱ（つくる）
7. 教材研究を伴う製作Ⅲ（造形あそび）
8. えがく、つくる、造形あそびの保育展開（指導法）とまとめ

テキスト

- 「こどもと造形表現Ⅰ」「こどもと造形Ⅰ」（配本テキスト）
 「幼稚園教育要領解説」（フレール館）
 「保育所保育指針解説書」（フレール館）
 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレール館）

参考書・参考資料等

市販の造形表現に関する書籍等

学生に対する評価

| 領 域 | 割合 | 評 価 基 準 |
|-------------|--------------------------------------|--|
| 受 講 態 度 | 20% | ・造形表現活動における教材研究及び指導・援助の方法について、意欲をもって取り組む姿勢であるかを基準とする。 |
| 課 題 | 50% | ・子どもの発達過程を踏まえた教材研究とそれに伴う作品製作及び発表内容（表現意欲）を基準とする。 |
| そ の 他 | | |
| 単 位 認 定 試 験 | 30% | ・『表現』領域の「ねらい」と「内容」における基礎的知識及び子どもの発達過程に応じた教材・用具の取り扱いや環境構成、指導・援助のあり方について論じられているかどうかを基準とする。 |
| 特 記 事 項 | 上記3領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 | |

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|---|-----|-----------|
| こどもと言語表現 | 1単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>1. こどもたちの生活に組み入れられている文化について、その歴史、内容などを理解し、豊かに育ちゆくこどものために好ましい文化の在り方を理解することを目的とする。</p> <p>2. 保育現場で使用される言語に関わる文化財を取り上げ、日々の生活の中でこどもの言語習得経験とどのように関係するのかを理解することを目的とする。</p> | | |
| ≪学習成果≫ | | |
| <p>レポ ー ト：子どもの発達に応じた言葉の習得と児童文化財についての基礎的知識を述べることができる。具体的な児童文化財の分析・考察を行い適切に文章化できる。</p> <p>科 目 試 験：子どもの発達に応じた言葉の習得と児童文化財について、具体的な活用の仕方を述べることができる。具体的な児童文化財の分析・考察をより多角的に行うことができる。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>理論を踏まえた上で、保育の場において役に立つ技術を身に付けることと、子ども達が文化によって夢や希望を与えられるだけではなく、自らが文化を創り出す活動や表現ができるようにすることも視野に入れ学習を行う。</p> | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. <こどもと文化のかかわり>意義、歴史、内容、成長・発達と遊び、玩具 2. <伝統文化1>折り紙の意義、折り紙の基礎 3. <伝統文化2>五節句の歴史、意義 4. <絵本1>こどもの絵本、絵本の種類 5. <絵本2>絵本の選び方、読み聞かせの方法と留意点 6. <紙芝居>歴史、特徴、演じ方の方法と留意点 7. <お話>意義、選び方、歴史、語り聞かせの方法と留意点 8. <お話>各国の作品、特徴 | | |
| テキスト | | |
| <p>「こどもと言語表現」(配本テキスト)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| <p>「紙芝居—共感のよろこび」まついのりこ著(童心社)(ISBN:9784494022359)</p> <p>「昔話入門」小澤俊夫編著(ぎょうせい)(ISBN:9784324052167)</p> <p>「アプローチ児童文学」関口安義編(翰林書房)(ISBN:9784877372576)</p> <p>「絵本を読む」松居直著(日本エディタースクール出版部)(ISBN:9784888883412)</p> <p>「本のよろこび」松居直著(日本出版放送協会)(ISBN:9784140808290)</p> <p>「えほんのせかい こどものせかい」松岡享子著(日本エディタースクール出版部)(ISBN:9784888881258)</p> | | |
| 学生に対する評価 | | |
| <p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 (レポート評価はルーブリック評価を用い行う。)</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p> | | |

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|--|-----|---------|
| こどもと音楽表現 | 2単位 | スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>保育内容に沿ってこどもの音楽表現活動を援助し、こどもの成長過程における豊かな人間形成を育成することをテーマとする。</p> <p>《学習成果》</p> <p>スクーリング：保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識を習得する。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>ピアノ奏法を学び、弾き歌いや伴奏法への応用力を身に付ける。また、音楽の様々な要素を能力として定着させるための訓練としてソルフェージュを行う。実技習得は、各自の習得度に応じた個別指導も行う。</p> | | |
| 授業計画 スクーリングによる面接授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ピアノ実技およびソルフェージュのレッスン授業としてのガイダンス 2. 第1教程では合理的なピアノ奏法を学ぶ 個々の習得度を考慮した練習曲をテキストより選び学習する（グループレッスン） 3. ピアノ教程、ソルフェージュ教程とも第1教程課題曲の形式など楽曲構成にも注目し学習する（グループレッスン） 4. 課題曲の学習（グループレッスン） 5. 発表会形式によるプレテスト（ピアノ演奏、ソルフェージュともにこれまでの成果を互いに聴く） 6. 第2教程では指の交差、ポジション移動を習得する テキストより練習曲を選び学習する（グループレッスン） 7. ピアノ教程、ソルフェージュ教程とも第2教程課題曲の形式など楽曲構成にも注目し学習する（グループレッスン） 8. 課題曲の技術的な問題点の練習法（グループレッスン） 9. 課題曲の学習（グループレッスン） 10. 発表会形式によるプレテスト（ピアノ奏法、ソルフェージュともにこれまでの成果を互いに聴く） 11. 第3教程では様々な国や時代の作曲家による楽曲も学習することにより表現の幅を広げる（グループレッスン） 12. ピアノ教程、ソルフェージュ教程とも第3教程課題曲の形式など楽曲構成にも注目し学習する（グループレッスン） 13. 課題曲の技術的な問題点の練習法（グループレッスン） 14. 課題曲の学習（グループレッスン） 15. 発表会形式によるプレテスト（ピアノ奏法、ソルフェージュともにこれまでの成果を互いに聴く） | | |
| テキスト | | |
| <p>「こどもと音楽表現」「こどもと音楽」（配本テキスト）</p> <p>「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）</p> <p>「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| <p>「新音楽辞典」音楽之友社編・発行（ISBN：9784276000131）</p> | | |

学生に対する評価

| 領 域 | 割合 | 評 価 基 準 |
|-------------|--------------------------------------|--|
| 受 講 態 度 | 20% | 保育者という専門職を目指す者として、その学ぶ姿勢が明確な目的意識を持ったものであったかを基準とする。 |
| 課 題 | | |
| そ の 他 | | |
| 単 位 認 定 試 験 | 80% | 保育内容に沿ったことものの音楽表現活動を援助できる技術と知識の習得ができてきているかを基準とする。 |
| 特 記 事 項 | 上記2領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 | |

| 授業科目名 | 単位数 | 学習形態 |
|--|-----|-----------|
| 教育方法論 | 2単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>教育方法の定義、意義、守備範囲の概念についての基本的知識を習得し、教育目標、教育内容、評価との関係性についての理解を深めるとともに、教育（保育）現場における様々な課題を解決する教育（保育）方法とその活用についての理解を深め、保育者として必要な資質を培う。</p> | | |
| 《学習成果》 | | |
| <p>レポート：設題を理解し、読み手に伝わる文章が作成できる。重要事項を落とさずに自らの考えをまとめることができる。</p> | | |
| <p>科目試験：教育方法の基本的事項について理解している。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>教育方法とは何か。その定義と意義、守備範囲についての知識を習得したのちに、教育方法の歴史的変遷を概観することをとおして、先人がどのような思想のもとに教育方法を展開してきたのかを考察する。さらに、教育に活用できる情報機器、教材・教具についての理解を深めたのちに学習指導の理論と授業の方法、および評価について理解する。後半では、幼児教育（保育）の方法、並びに小学校教育との連続について考察する。最後に教育方法の課題と今後の展望について検討する。</p> | | |
| 授業計画 | | |
| テキストによる通信授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育方法の定義・意義と守備範囲 2. 教育方法の歴史的展開①（西欧の教育方法） 3. 教育方法の歴史的展開②（近・現代の教育方法） 4. 教育方法の歴史的展開③（日本の教育方法） 5. 教育技術の革新と情報機器の活用 6. 教材・教具 7. 教育課程の構成原理と分類 8. 授業の理論と授業の設計 9. 授業分析 10. 生徒指導 11. 幼児の理解と幼児教育（保育）の方法 12. 近代以降の幼児教育（保育）方法 13. 幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領 14. 幼児教育（保育）内容と小学校の教育内容 15. 教育方法の課題と展望 | | |
| テキスト | | |
| <p>「教育方法論」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| <p>「小学校学習指導要領（解説書含む）」</p> | | |
| 学生に対する評価 | | |
| <p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 （レポート評価はルーブリック評価を用い行う。）</p> | | |
| <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p> | | |

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|---|-----|-----------|
| 教 育 相 談 | 2単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>教育相談とは、一人一人の子どもの教育上の諸問題について、本人またはその親や保育者などに助言、指導、そして場合によってはカウンセリングを行うことである。このような働きかけを通して、子どもの持つ悩みや問題の解決を援助し、さらにはその子どもの望ましい生き方・在り方や人格の成長を目指していくことである。より良い教育の方向を求めて指導助言ができる基礎理論と実際について学ぶ。</p> | | |
| ≪学習成果≫ | | |
| <p>レポ ー ト：幼児教育の課題と家庭との連携の在り方、心理アセスメントの活用について理解できるようになる。</p> <p>科 目 試 験：カウンセリングの基本と心理アセスメントの活用、幼・小及び家庭との連携が理解できるようになる。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>教育相談の究極的な目的は、子どもの人間形成、人格形成にある。幼児、児童、生徒を対象にした現場における教育相談に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導（生徒指導）、しつけ、学習適応、進路指導等について学ぶ。また、カウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深める。</p> | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育相談の基本 教育相談の概要と学び方を学ぶ 2. 教育相談の基本 カウンセリングの基本（意義・理論）とカウンセリングの基本的な方法（受容的態度と共感、傾聴） 3. カウンセリングの実際（方法と留意点） 4. 教育相談と心理アセスメント（知能検査・発達検査・行動観察法、他） 5. 子どもの自己理解を進める技法 子どもの自己表現と自己理解の発達 6. 子どもの自己理解を進める技法 自己理解の技法 7. 幼児・子ども理解とカウンセリング・マインド（実際のカウンセリングと教師の行う教育相談の違いを理解する） 8. 幼児・子ども理解とカウンセリング・マインド（教師の行う教育相談の理解を深める） 9. 幼稚園・保育園における園児への心理的援助及びその保護者との教育相談 10. 小学校における児童への心理的援助及びその保護者との教育相談 11. 教育相談の実際（発達障害、知的障害、自閉・情緒障害） 12. 教育相談の実際（不登園・不登校、いじめ、虐待・非行と小・中学生の心理アセスメント） 13. 教育相談の実際（事例研究） 14. 教育相談と家庭・学校・地域との連携と教育相談（幼・小の連携、親との連携） 15. 教育相談の課題と対応（今日の教育課題、教育相談の担い手） | | |
| テキスト | | |
| <p>「教育相談」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| <p>「小学校学習指導要領」及び解説書</p> | | |
| 学生に対する評価 | | |
| <p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 （レポート評価はルーブリック評価を用い行う。）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p> | | |

| | | |
|-----------|-------|------------------|
| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
| 乳 幼 児 保 育 | 2 単 位 | レポ-ト・科目試験・スクーリング |

授業のテーマ及び学習成果

乳幼児の発達を理解し、保育者として必要な援助の方法や技術を身につける。

《学習成果》

- レポ-ト：乳幼児保育の場について家庭及び家庭的保育などの現状と関連性を理解できる。
- 科目試験：乳幼児保育の現状と役割、乳幼児の援助について具体的に理解できる。
- スクーリング：乳幼児保育の果たす役割について具体的な援助方法や保護者支援を理解できる。

授業の概要

乳幼児保育の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴など、基本的な知識について学び、その意義や必要性を理解できるようにする。人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し、適切な保育の計画や方法、保護者への支援の習得を目指す。

授業計画 テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業

【通信授業】

1. 乳幼児保育とは
2. 乳幼児保育の歴史、背景と制度
3. 現代社会と乳児、乳幼児保育の場
4. 乳幼児の発達と保育内容(1)
 - ・ 6か月未満児
5. 乳幼児の発達と保育内容(2)
 - ・ 6か月から1歳3か月未満児
6. 乳幼児の発達と保育内容(3)
 - ・ 1歳3か月から2歳児
7. 乳幼児保育における保護者との関係

【面接授業】

1. 乳幼児保育の現状
2. 乳幼児の生活と遊び、環境づくり
3. 乳幼児の理解、援助の実際
4. 集団保育における安全と健康
5. 乳幼児保育の発達と保育内容
6. 保育課程に基づく指導計画
7. 乳幼児保育における連携と地域子育て支援
8. 乳幼児保育の課題

テキスト

- 「乳幼児保育」(配本テキスト)
- 「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)
- 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

【通信授業】

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。
(レポート評価はループリック評価を用い行う。)

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。

【面接授業】

| 領 域 | 割 合 | 評 価 基 準 |
|---------|--------------------------------------|--------------------------------|
| 受 講 態 度 | 30% | 受身でなく意欲的に授業に取り組んでいるかを基準とする。 |
| 課 題 | 20% | 授業中に提出を求められた課題を基準とする。 |
| そ の 他 | | |
| 単位認定試験 | 50% | 授業内容に加えて自分の意見を述べられているのかを基準とする。 |
| 特 記 事 項 | 上記3領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 | |

※科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う。

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|---|--------------------------------------|---|
| 社会的養護内容 | 1単位 | スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| 1. 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ。 2. 施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ。 3. 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。 4. 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解する。 5. 社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。 | | |
| 《学習成果》 | | |
| スクーリング：社会が子どもを育む意義と課題を認識し、専門職としてその中核を担う自覚を持つ。 | | |
| 授業の概要 | | |
| 望ましい保育者となるために、社会的養護の課題や内容（処遇等）に関する基本的な知識および技術について学ぶ。 | | |
| 授業計画 スクーリングによる面接授業 | | |
| 1. オリエンテーション | | ・ 授業の概要と受講の心構え ・ 保育士等の倫理及び責務 |
| 2. 児童の権利擁護 | | ・ 児童の権利の歴史 ・ 児童養護の定義と体系 |
| 3. 社会的養護の実施体系 | | ・ 児童養護の体系 ・ 社会的養護の基本理念と現状及び今後の展望 ・ 里親制度の特性及び実際とその課題 |
| 4. 児童福祉施設（社会的養護施設） | | |
| 5. 児童を取り巻く環境の変化 | | |
| 6. 虐待問題 | | ・ 虐待の増加 ・ 虐待の定義 ・ 虐待対応とその課題 |
| 7. 児童養護施設 | （講義） （演習） | ・ 入所理由・処遇上の留意点・施設の役割と施設養護の課題 ・ 生活場面における児童の行動とその対応のロールプレイ ・ 自立支援計画表の作成 |
| 8. 虐待問題を考える | | ・ 虐待に関するビデオ鑑賞（観賞メモの作成とグループ討議） |
| テキスト | | |
| 「保育所保育指針解説書」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館） | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| 「保育者養成シリーズ『社会的養護内容』」千葉茂明編著（一藝社）（ISBN：9784863590700） | | |
| 学生に対する評価 | | |
| 領 域 | 割合 | 評 価 基 準 |
| 受 講 態 度 | 30% | 授業を妨げる言動なく自ら学ぶ姿勢で受講していることを基準とする。 |
| 課 題 | | |
| そ の 他 | | |
| 単位認定試験 | 70% | 授業内容を理解し、自身が目指す専門職人としての保育者像がしっかりと述べられている事を基準とする。 |
| 特 記 事 項 | 上記2領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 | |

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|--|--|-----------------|
| 教育実習事前・事後指導 | 1単位 | 事前スクーリング・事後レポート |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>実習に向けて、学習の意義・目的を理解し、保育について知識・技能・態度等を総合的に学ぶ。</p> <p>〈学習成果〉</p> <p>レポ ー ト：実習で得られた実践知を確認・考察し、教職に就く準備に入るとともに目標を設定する。</p> <p>スクーリング：教育実習で行う手続き・準備・心構えを確認し、実習中に行う実技等を身に付ける。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特性や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に臨む態度を育成する。また、実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。</p> | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業 | | |
| 1. 実習の意義と目的 | ・ 幼稚園教育の特質 ・ 実習の意義と目的 ・ 保育者としての倫理(守秘義務 職務に専念する義務等) | |
| 2. 教育実習の流れと手続き、その内容 | ・ 実習生としての心構え ・ 事前相談・打ち合わせ | |
| 3. 観察・参加・責任実習 | ・ 長期指導計画・短期指導計画 ・ 子どもを取り巻く環境(環境構成) ・ 幼児理解と保育 | |
| 4. 教師の援助 | ・ 保護者理解と支援 ・ 特別な支援を要する子どもへの対応 | |
| 5. 実践演習 | ・ 手遊び、読み聞かせ | |
| 6. 指導案作成(1) | ・ 指導案とは何か | |
| 7. 指導案作成(2) | ・ 指導案作成の実際 | |
| 8. 実習の総括と評価、課題の明確化 | ・ 幼児理解と学び ・ 保育者の活動からの学び | |
| テキスト | | |
| <p>「教育実習事前事後指導」(配本テキスト)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| 特になし | | |
| 学生に対する評価 | | |
| 【通信授業】 | | |
| <p>学習状況の確認：レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 (レポート評価はルーブリック評価を用い行う)</p> | | |
| 【面接授業】 | | |
| 領 域 | 割合 | 評 価 基 準 |
| 受 講 態 度 | | |
| 課 題 | | |
| そ の 他 | | |
| 単位認定試験 | | |
| 特 記 事 項 | 面接授業では(学習のまとめ)も含めて100点満点で評価し、60点以上で合格すれば、教育実習申し込み条件を一つ満たします。 | |

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|---|-----|---------------------|
| 保育実習指導Ⅰ | 2単位 | 事前スクーリング・事前及び事後レポート |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。保育所・認定こども園、児童福祉施設とは何かを知る。 2. 実習の流れと実習上の留意点を理解する。(含む、マナー) <ol style="list-style-type: none"> ①観察実習、参加実習、責任実習とは何かを学び、併せて観察の仕方を学ぶ。 ②社会人としてのマナーや、報告・連絡・相談(ほうれんそう)についても知る。 3. 実習課題の設定の仕方・保育指導案の立て方、実習簿の書き方を学ぶ。 4. 事後指導では、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題や学習目標を設定する。 | | |
| 《学習成果》 | | |
| <p>レポ ー ト：保育実習の意義・目的、児童福祉施設の役割について理解できる。実習後は、実習の振り返りと自己評価を行い、次の実習課題や学習目標が設定できる。</p> <p>スクーリング：実習の流れや実習上の留意点を学ぶとともに、実習日誌の書き方および指導計画の立て方を身に付ける。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>実習の意義を理解し、学校での今までの学びを使いながら、どのように子どもを支援していくか演習を通して考える。実習の流れと実習上の留意点をテキストを中心に学び、自分の実習課題を立てる。(演習) 保育指導案の書き方、実習簿の書き方を学ぶ。事後指導では、実習を振り返り自己評価を行い新たな課題や学習目標を設定する。</p> | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の意義・目的を理解する 2. 保育所とは何か、保育所の置かれた現状について 3. 新保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 4. 保育所を構成する職員(どんな人が配置されているか)や職種間の連携 5. 社会人としてのマナー・報告、連絡、相談(ほうれんそう) 6. 乳幼児の年齢別発達の特徴 7. 緊急時の対応(けが・地震・火事等)、事故を防ぐ留意点 8. 観察実習、参加実習、責任実習とは何か、併せて観察の仕方を学ぶ 9. 実習簿の書き方と保育指導案の立て方 10. 絵本の読み方、手遊びの仕方、ピアノ等の保育技術の利用の仕方 11. 児童福祉施設の種別及び特徴、他職種及び他機関との連携 12. 社会的養護の原理・原則及び支援の留意点 13. プライバシーの保護と守秘義務など保育者の倫理 14. 実習の目標や実習課題の設定(演習) 15. 事後学習では、実習の総括と自己評価を通して新たな課題や自己目標を明確にする | | |
| テキスト | | |
| <p>「保育実習指導」(配本テキスト)</p> <p>「保育所保育指針解説書」(フレール館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレール館)</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| <p>「幼稚園保育所実習パーフェクトガイド」小櫃智子他著(わかば社)(ISBN:9784907270018)</p> <p>「施設実習パーフェクトガイド」小櫃智子他著(わかば社)(ISBN:9784907270094)</p> | | |

学生に対する評価

【通信授業】

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。
(レポート評価はルーブリック評価を用い行う。)

【面接授業】

| 領 域 | 割合 | 評 価 基 準 |
|---------|--------------------------------------|------------------------------|
| 受 講 態 度 | 10% | 自律した学ぶ姿勢・行動であるかを基準とする。 |
| 課 題 | 20% | 実習目標、実習課題を立てられたかを基準とする。 |
| そ の 他 | 10% | 演習に積極的に参加できたかを基準とする。 |
| 単位認定試験 | 60% | 授業全体を通して、必要な事項を学べているかを基準とする。 |
| 特 記 事 項 | 上記4領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 | |

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|--|-----|------------|
| 保育実習指導Ⅱ | 1単位 | 事前及び事後レポート |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習Ⅱの目的は、保育実習Ⅰで学習した保育所における保育の学びをさらに深め、発達援助の技術、生活援助の技術、関係性構築の技術、環境構成の技術、遊びを展開する技術等について専門性と実践力を磨くことにある。 2. 今までで大学で学習した知識をどのように使いながら保育をしていくのかを学び、実践力と専門性を高める。 3. 実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。 | | |
| 《学習成果》 | | |
| <p>レポ ー ト：1. 保育実習Ⅰの振り返りと実践的な自己課題の設定ができる。</p> <p>2. 実習を振り返り、保育所の保育者や子どもの実際について理解できる。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>保育現場での保育実践を、自分の物として身に付けられる事をねらいとする。他授業で学んだ知識および保育実習Ⅰで学んだ内容を振り返り、実習で生かせるように準備する。</p> <p>また、保育の援助技術とは何かについて理解し、実習を通して、保育の援助技術を自分の物として身に付け専門性を高められるようにする。そして、それらのねらいの全てが子どもの「最善の利益を保障する」ためのものであることを確認する。</p> | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習Ⅰの振り返りと実践的な自己課題の決定（何々について研究的に学びたい、頑張りたい等の決意） 2. 保育知識のおさらいと実習で身に付けてきてほしいこと(1) 子どもの発達、5領域のねらいと現場での視点 3. 保育知識のおさらいと実習で身に付けてきてほしいこと(2) 子どもの基本的な生活習慣の獲得と保育支援 4. 保育知識のおさらいと実習で身に付けてきてほしいこと(3) 遊びを展開するための知識等と環境設定の技術 5. 保育知識のおさらいと実習で身に付けてきてほしいこと(4) 子どもの心に寄り添うとは何かについて 6. 保育知識のおさらいと実習で身に付けてきてほしいこと(5) 環境構成の技術と人間関係構築の技術 7. 責任実習に向けての保育指導案の立案の仕方と実施のための留意点 8. 実習上の諸注意のまとめ（含む、保育者としての倫理、守秘義務、プライバシーの保護） | | |
| テキスト | | |
| <p>「保育実習指導」（配本テキスト）</p> <p>「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| <p>「幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド」小櫃智子他著（わかば社）（ISBN：9784907270018）</p> | | |
| 学生に対する評価 | | |
| <p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 （レポート評価はルーブリック評価を用いる。）</p> | | |

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|--|-----|------------|
| 保育実習指導Ⅲ | 1単位 | 事前及び事後レポート |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設における保育者の専門性について理解する。 2. 児童福祉施設に暮らす子どもや親について理解する。 3. 児童福祉以外の社会福祉施設について知る。 4. 老人福祉・障害者福祉における保育者の役割等簡単に理解する。 5. 施設内の連携、他機関との連携について理解する。 6. 実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。 | | |
| 《学習成果》 | | |
| <p>レポ ー ト：1. 子ども支援、親支援の現状について、保育実習Ⅰの経験を振り返りながら考えることができる。</p> <p>2. 実習を振り返り、実習施設種の抱える問題、そこで働く職員の職種と職務内容、子どもたちが置かれた現状について理解できる。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>施設種により保育者の仕事の具体的な支援内容は異なる。自分の行く実習施設種を中心に事前レポート、事後レポートなどで学習する。</p> | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設の施設種の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・施設の現状と問題点について 2. 社会的養護の現状について 3. 自分の行く実習施設種を中心とした実習施設の現状と問題点 4. 児童福祉施設における子ども支援、親支援の現状について（保育実習Ⅰの経験を振り返りながら考える） <ol style="list-style-type: none"> ①乳児院・児童福祉施設等への入所理由の理解と子ども支援・親支援の実際。 ②障がい（児・者）の障がい特徴と支援上の留意点 ③老人関係の施設種と老人の福祉について 5. 社会的弱者支援の基本を知る(1) <ul style="list-style-type: none"> ノーマライゼーションの意味を理解し、どのような支援を通して実践しているかを知る 6. 社会的弱者支援の基本を知る(2) <ul style="list-style-type: none"> 人権の保護とエンパワメント（人権侵害とは何か）について知る 7. 個別支援計画と他機関との連携について 8. 事後指導における実習の総括と評価 <ul style="list-style-type: none"> ・実習の総括と自己評価 ・自分の保育者としての課題の明確化 | | |
| テキスト | | |
| <p>「保育実習指導」（配本テキスト）</p> <p>「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| <p>「施設実習パーフェクトガイド」小櫃智子他著（わかば社）（ISBN：9784907270094）</p> | | |
| 学生に対する評価 | | |
| <p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 （レポート評価はルーブリック評価を用い行う。）</p> | | |

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|---------------------|-----|------------------|
| 幼児専攻 保育・教職実践演習(幼稚園) | 2単位 | レポート・科目試験・スクーリング |

授業のテーマ及び学習成果

通信授業で学んだ学習知と教育実習で得られた実践知を統合し、確かな実践的指導力を身に付ける。

《学習成果》

レポ ー ト：特別支援教育についての学びをレポートにすることにより、幼稚園教育の理解へと発展させる。

科 目 試 験：幼稚園教育において特に重要な学習知を確認して、より実践的な教員の養成を図る。

スクーリング：学習知と実践知を統合して確かな実践的指導力を身に付け、教職への意欲を醸成する。

授業の概要

これまでに形成された資質能力を確認し、これからの自己の課題の自覚と克服に努める。教職生活を円滑にスタートできるように、学校現場の視点に立った様々な場面でリスクマネジメントや保育カンファレンス及び保育実技を通して、実践的指導力を身に付ける。

授業計画 テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業

【通信授業】

1. 教師という職業
2. 学級経営
3. 特別支援教育の基礎
4. 特別支援教育と教師・保育者
5. 保育における集団の編成
6. 幼児教育の将来的展望
7. 幼保小連携

【面接授業】

1. ガイダンス
2. 学級経営における臨床場面での教師の対応Ⅰ(ロールプレイング)
3. 保育場面での対応(事例研究) 課題のある子ども(幼児)の事例研究
4. 集団討論Ⅰ「教育課題の解決への教師としてのアプローチ」
5. 保育計画と模擬保育
6. 統合保育・異年齢保育に関わる課題と展望
7. 「幼保小連携」子どもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方
8. 学習のまとめ ・ 自己の振り返り ・ 今後に向けての課題

テキスト

「保育・教職実践演習(幼稚園)」(配本テキスト)

「幼稚園教育要領解説」(フレール館)

「保育所保育指針解説書」(フレール館)

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレール館)

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

【通信授業】

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。

(レポート評価はルーブリック評価を用い行う。)

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。

【面接授業】

| 領 域 | 割合 | 評 価 基 準 |
|---------|--|-------------------------------------|
| 受 講 態 度 | 40% | 積極的な態度、発表を基準とする。 |
| 課 題 | | 手遊び、読み聞かせ、指導案の作成等を基準とする。 |
| そ の 他 | | |
| 単位認定試験 | 60% | 演習で取り扱った内容について、的確に理解しているかどうかを基準とする。 |
| 特 記 事 項 | 上記2領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 ※「保育・教職実践演習」のための履修カルテ①・②を作成し、スクーリング受講時に必ず持参すること。 | |

※科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う。

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|---------------------|-----|------------------|
| 保育専攻 保育・教職実践演習(幼稚園) | 2単位 | レポート・科目試験・スクーリング |

授業のテーマ及び学習成果

通信授業で学んだ学習知と教育実習で得られた実践知を統合し、確かな実践的指導力を身に付ける。

《学習成果》

レポ ー ト：特別支援教育についての学びをレポートにすることにより、幼稚園教育の理解へと発展させる。

科 目 試 験：幼稚園教育において特に重要な学習知を確認して、より実践的な教員の養成を図る。

スクーリング：学習知と実践知を統合して確かな実践的指導力を身に付け、教職への意欲を醸成する。

授業の概要

これまでに形成された資質能力を確認し、これからの自己の課題の自覚と克服に努める。教職生活を円滑にスタートできるように、学校現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス及び保育実技を通して、実践的指導力を身に付ける。

授業計画 テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業

【通信授業】

1. 教師という職業
2. 学級経営
3. 特別支援教育の基礎
4. 特別支援教育と教師・保育者
5. 保育における集団の編成
6. 幼児教育の将来的展望
7. 幼保小連携

【面接授業】

1. ガイダンス
2. 学級経営における臨床場面での教師の対応Ⅰ(ロールプレイング)
3. 保育場面での対応(事例研究) 課題のある子ども(幼児)の事例研究
4. 集団討論Ⅰ「教育課題の解決への教師としてのアプローチ」
5. 保育計画と模擬保育
6. 統合保育・異年齢保育に関わる課題と展望
7. 「幼保小連携」子どもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方
8. 学習のまとめ ・ 自己の振り返り ・ 今後に向けての課題

テキスト

「保育・教職実践演習(幼稚園)」(配本テキスト)

「幼稚園教育要領解説」(フレール館)

「保育所保育指針解説書」(フレール館)

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレール館)

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

【通信授業】

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。

(レポート評価はループリック評価を用い行う。)

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。

【面接授業】

| 領 域 | 割合 | 評 価 基 準 |
|---------|--|-------------------------------------|
| 受 講 態 度 | 40% | 積極的な態度、発表を基準とする。 |
| 課 題 | | 手遊び、読み聞かせ、指導案の作成等を基準とする。 |
| そ の 他 | | |
| 単位認定試験 | 60% | 演習で取り扱った内容について、的確に理解しているかどうかを基準とする。 |
| 特 記 事 項 | 上記2領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 ※「保育・教職実践演習」のための履修カルテ①・②を作成し、スクーリング受講時に必ず持参すること。 | |

※科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う。

